



国鉄労働組合
東海エリア本部

東京港区新橋5-15-5
交通ビル7階
発行責任者 植田 誠
編集責任者 寺崎 浩

23春闘勝利と組織拡大に全力を

東海本部が「旗開き」を開催

国労東海本部は1月10日、新型コロナウイルス感染症拡大により開催を見送っていた「旗開き」を3年振りに、名古屋国鉄会館で開催しました。

コロナへの感染防止のために人数を制限しながら、全交運生協・東海事業本部事業推進部長

の脇崎広幸氏、鉄道退職者の会・名古屋地方連合会事務局長の大島公氏が来賓として参加。各地

方本部代表者等を交え全体で約25人が参加しました。

冒頭、木村副委員長の開会あいさつ後に、植田委員長が各会

の取り組み強化とともに、春闘勝利に向けた決意を述べました。

（要旨を左欄に掲載）

その後、来賓からのあいさつを受け、全交運の脇崎氏より、「こくみん共済COOP」への今年7月1日移管が、組合員全員が問題なく円滑に進むように



旗開きは名古屋地本の鶴山書記長の団結がばらうで終了

取り組んでいる事の報告とともに、協力のお願いがありました。鉄道退職者の会の大島氏は、国労が共済を作り上げてきた歴史と国労東海本部がこれからも労働者のために闘い続けるよう叱咤激励されました。

れ、参加者全員が23春闘勝利に向けて取り組みを確認しました。なお、「旗開き」に先立ち「拡大地方代表者会議」を各地本三役と東海貨物協議会代表者が参加して開催。23春闘への取り組みを議論するとともに、要求集約に向けた意思統一を行いました。

植田委員長あいさつ（要旨）

1、JR各社はコロナ禍の影響が大きく厳しい経営を余儀なくされ、経費削減等の施策を前倒して実行。JR東海も「業務改革」を明らかにし、ワンマン運転の拡大・集中旅客サービスシステムの導入による駅無人化の拡大等を実施するとしている。それで安全・安定輸送やサービス、社員の労働条件などを守りさらに向上が図られるのか。労働者・利用者目線での検証が必要だ。

貨物関係では、国交省の有識者会議「鉄道物流のあり方に関する検討会」の中間とりまとめが発表され今後の取り組みと方向性が整理された。重大なのは、補足資料として出されたものに、自衛隊の輸送力向上のため、鉄道輸送の更なる活用を追求すると記載されていることだ。

2、組織問題です。国鉄分割・民営化から35年が経過し、国鉄採用世代の退職等により厳しい状況だ。しかし、次世代へ国労運動と財産を継承していくこと、組合の安定的運動を作っていくためには組織強化・拡大が一番の特効薬だ。本部の闘争指示第7号に基づき、東海本部も組織対策会議を立ち上げ取り組みを強化。もう一歩前に足を出し、職場・分会・地本・エリアが一体となって引き続き最重要課題として組織強化・拡大運動を強化したい。

3、政府は、国民の生活の厳しさに目を向けることなく、防衛費を「5年以内にGDP比2%以上」に増やすとし、「国民全体に負担することを視野に入れなければならない」としているが、増税するのなら衆院を解散し、有権者に判断を仰ぐのが筋ではないか。そのためにも、今年予定されている統一地方選挙では労働者・国民生活を守る立場で奮闘する候補者の勝利に向け奮闘することが求められている。

4、2023春闘です。私たちの生活は、物価高に賃金が追いついておらず大変厳しい状況で、先の賃金アンケートで明らかになった毎月の赤字額は、東海会社49,616円、貨物会社28,333円、関連会社49,444円。今年の春闘での賃上げが焦点だ。岸田首相は、経団連など経済3団体の新年祝賀会で2023年春闘に関し「インフレ率を超える賃上げの実現をお願いしたい」と要請。いずれにしても、決定される要求額については、例年以上に要求獲得に向けた取り組みが重要だ。

闘いの基礎は言うまでもなく職場・地域です。職場・地域での奮闘と、国民的諸課題を結合した23春闘を闘い、その中で組織拡大を意識し、結果を求めた取り組みをお願いしたい。

東海本部は、2023春闘をはじめ組合員・家族はもとよりすべての国民の生活、労働者の権利確立、平和と民主主義を守る闘いの先頭に立ち奮闘したい。私たちは、微力ではありますが無力ではありません。ともにがんばりましょう。

がん保険にできることを、もっと。

No.1 アフラックがん保険



1 幅広い保障で経済的負担をサポート
治療前・検査から治療後の外費ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。

2 付帯サービス「アフラックのよりそうがん相談サポート」
アフラックのよりそうがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート
「がんがもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

（※1）アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ（<https://www.afiac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html>）をご確認ください。

（専任代理店）アフラックは代理店制度を採用しています
アベニール株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5
交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

（保険提供会社）AFツール-2022-0277-2210030 7月13日
「生きる」を。アフラック
東京第二法人営業部
東京都千代田区丸の内1-6-1
丸の内センタービル19階
TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

職場・地域で闘いを作り上げよう

私たちは国労は、今春闘ですべての労働者・国民の要求実現のために職場と地域で闘うことが求められています。

国労は2023年春闘を闘うにあたり、全組合員参加の取り組みを追求することとし、①職

改善行動を展開する、②厳しい労働環境下にありながらも地域で闘う仲間と連携し、憲法改悪・大軍拡・増税路線に反対する闘いと結合しながら、全組合員が職場から行動を実践する春闘を構築する、③ＪＲ北海道や四国貨物に頭在化している経営にかかわる構造矛盾の解決、整備新幹線開業による並行在来線の経営問題、「鉄道政策に関する各種提言」に関する取り組みと安

全・安定輸送に向けた闘いを強化する、を方針としています。

賃上げ要求については、定期昇給の完全実施と基本給（平均）の4・8%相当額、1万3千円

国労 フクシマ
交流・視察学習会
(第10回)
参加者の感想文

国労本部主
催で2022
年11月26
日、J R採
用組合員14
人を含む7
人の

参加で第10回フクシマ交流・視察学習会が実施されました。富岡町「東電廃炉資料館」や双葉町「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学し、交流学習会では第25代高校生平和大使から

のベースアップ、再雇用者（60歳以上）の賃金底上げをめざす制度改正を求める、としています。

連合の「2023春季生活闘

態間、男女間の格差は正を強力に進める必要がと強調した上で、「底上げ」「底支え」「格差是正」の観点から、賃上げ分を3%程度、定昇相当分(賃金カーブ維持相当分)を含む賃上げを5%程度とすることを決定しました。

全労連や純中立、地域共闘等

の活動報告、福島県平和フォーラムからトリチウム放射能汚染水の海洋放出の問題点の講演を受け、原発再稼働反対・脱原発の取り組み強化の決意を固めました。(詳細は「国鉄新聞」第3270号を参照)

第3270号を参照

今回初めて参加し、原発被害が著しい福島県沿岸部の常磐線沿線を訪れた。放射線汚染が低い地域は復興が進み始めている

で構成する「国民春闘共闘委員会」は、「誰でもどこでも時給1500円以上、月2万5000円以上の産業・企業内最低賃金」や法定最低賃金「全国一律1500円以上」などの底上げ要求を提起するとともに、「月2万5000円以上+ α 、時給1500円以上+ α 」の賃上げ要求をめざすこととしています。

「23けんり春闘実行委員会」春闘方針

同委員会「誰もが安心して働ける職場・暮らせる社会の実現を」求め、「誰でもどこでも時給1500円以上・月額25万円以上・7%以上の賃上げ獲得」をめざしています。

が、帰宅困難地域では常磐線
全線が開通しても、駅前には
活感が全くないゴーストタウ
状態であり、見えない放射能
という恐怖により帰りたいも
れないのが現状で、原発災害
天災でなく人災だと改めて感
た。原発と人間の共存はでき
いと確信するとともに、二日
と短い時間だが貴重な経験が
きたと考える。

(東海本部執行委員 赤松大

交運共済 ニュース

家族の幸せを災害から守る

火災共済 ⊕ オプション保障

**火災共済の保障力を、
さらにアップさせる新制度。**

近隣の家へ損害を与えたときの「類焼損害保障」、日常生活での賠償事故に備える「個人賠償保障」、賃貸住宅で火事を起こした場合の「借家人賠償保障＋修理費用」。火災共済とセット加入することで大型保障を実現します。

B1424401E2144-20150209



オプション保障(類焼損害費用保険、個人賠償責任保険、借家人賠償責任保険+修理費用)は、共栄火災海上保険㈱を引受保険会社とする保険契約であり、共済ではありません。詳しい内容は必ずパンフレットおよび重要事項説明書をご確認ください。



みんなで暮らしをガード
交運共済 (JR職域生協、
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合)